

風水害に備えて

大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

大雨注意報・警報・特別警報(浸水害・土砂災害)の発表基準

大雨注意報	大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合	大雨警報	大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合	大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
--------------	----------------------------	-------------	-------------------------------	---------------	-----------------------------------

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発令されます。

水害時の心得

被害の軽減

扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、「水のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。

動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は脱げにくいものを選びましょう。長靴は水が入ると足を取られるので避けましょう。レインコートは上下が分かれているタイプが目立つ色のものがよいでしょう。

避難の前に確認と呼びかけ

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。危機が迫った時には、速やかに近所に声を掛けながら避難しましょう。

避難所までの移動

風雨が激しくなる前に車か徒歩で避難しましょう。風雨が激しくなってきたら車の避難は、歩行避難者・緊急車両の妨げになるばかりでなく、洪水による水没の危険もあるので車の利用は避けましょう。

水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、水が濁って足元が見えにくくなります。長い棒や杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。

地下から素早く地上へ避難する

地下空間へは水が勢いよく流れ込み、水圧でドアが開かなくなる場合もあるので、できるだけ早く地上へ避難しましょう。

危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。

氾濫水は勢いが強い

氾濫水は、勢いが強く水深が膝程度あると大人でも歩くのが困難です。緊急避難として、高い堅牢な建物にとどまることも選択肢の一つです(津波の場合を除く)。

川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水を見に行きたくありません。河川の様子を確認は、自治体などのライブカメラ情報を活用しましょう。また、避難の途中も川の近くを通るの避けましょう。

川の氾濫等

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示を出すのが難しいため、注意が必要。



浸水の深さについて



土砂災害の種類

土砂災害は大きく分けてがけ崩れ(急傾斜地の崩壊)・地すべり・土石流の3種類があります。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちる。日本で最も多い土砂災害で、人家の近くでも発生するため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い。



主な前兆

- がけから水が吹き出す。
- がけからの水が濁る。
- がけに亀裂が入る。
- 小石がパラパラと落ちてくる。
- がけから音がする。

地すべり

脆弱な地質の土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が地下水の影響と重力で下方へ移動する現象。一度に広範囲で発生するために、住宅や道路などに大きな被害をおよぼす。



主な前兆

- 山腹や地面にひび割れができる。
- 山腹や地面に段差ができる。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 斜面や地面から水が吹き出す。
- 建物や電柱、樹木が傾く。
- 井戸や野池の水かさが増える。

土石流

谷や斜面にたまった土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一気に流れ出す。強大な威力と圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊滅させていく。



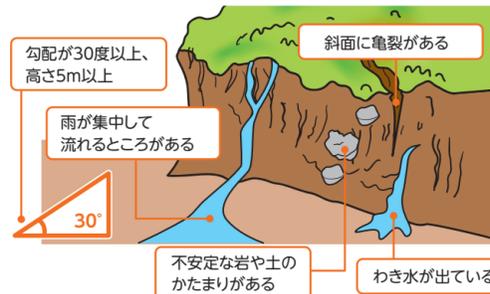
主な前兆

- 山鳴りや立ち木の裂ける音が聞こえる。
- 石のぶつかり合う音が聞こえる。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の水が急に濁ったり、流木が流れてくる。
- 泥臭いにおいが漂う。

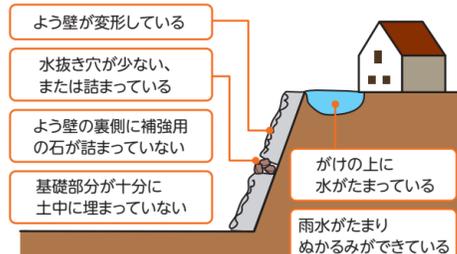
危険箇所をチェックしよう

勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。また、がけや盛り土の崩落を防ぐためのよう壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。日ごろから家の周囲をよく見て、危険箇所がないかチェックしておきましょう。

こんな崖に注意!!



こんなよう壁に注意!!



土砂災害警戒情報とは

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに警戒を呼びかける情報で、千葉県と気象庁が共同で発表しています。周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報等が発表されていなくても、危険を感じたら、躊躇することなく自主避難をしましょう。

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

住民等の生命又は身体に**危害が生ずる**おそれがあると認められる土地の区域

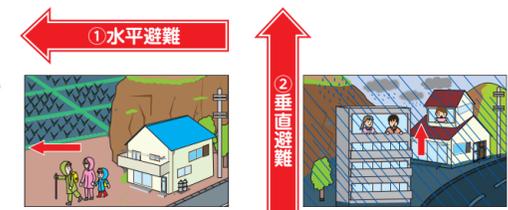
土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

住民等の生命又は身体に**著しい危害が生ずる**おそれがあると認められる土地の区域

気象庁 <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/>

避難行動のポイント

- 1 上記の土砂災害の事象に注意し、早めの避難をする。
- 2 がけ崩れや土石流の起こる方向に対して横方向に避難(①水平避難)する。
- 3 夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(②垂直避難)することも考慮する。
- 4 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。
- 5 土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。



記録的短時間大雨情報とは、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析:解析雨量)したりしたときに発表します。